

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 2年 4月13日

公表: 令和 2年 4月15日

事業所名 児童発達支援センターすまいるきつず

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		療育体制の基準を満たしており、各活動に合わせたスペースを十分確保できています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		人員配置基準を上回っています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		施設内はバリアフリーです。個々に合わせたスケジュールや構造化した環境を準備し、幅広く障がい特性に応じた環境を整えています。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		ケース会議や毎朝のミーティングでは、基本出勤者全員参加しています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		日頃から保護者様との関わりを通し、相談しやすい関係づくりに努めています。保護者評価表やアンケートの活用も行っていきます。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所向け自己評価表ならびに保護者向け評価表をホームページにて公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		法人が第三者による評価を受けています。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		保護者向け研修を通して資質の公表を図ると共に、法人内研修を通して学んでいます。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的にあセスメントとモニタリングを行い、個別支援計画書を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化したアセスメントツールを使用し、評価を行っています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ミーティングの時間をつくり、意見交換を行いながら立案しています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		ミーティングの時間をつくり、意見交換を行いながら立案しています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		療育時間や子どもの特性、課題に応じた活動内容を提供しています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どもの状況に合わせて個室での対応や集団活動を計画的に行っています。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		午後にミーティングの時間を設けて、担当や活動内容などの打ち合わせを行っています。		
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		翌朝のミーティングにて情報共有を行っています。		

17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	支援目標に対する子どもの様子や手立てなど詳しく記録に残し、ミーティング時に支援の検証・改善につなげています。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○	半年に一回モニタリングを基本に、変化が見られる時はその都度個別支援計画書の見直しを行っています。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○	圏域の事業所等と勉強会を行い、内容を確認しながら事業を展開し支援を行うようにしています。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		主に児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		基本的には保護者様を通して連絡調整を行っています。難しい場合は、保護者様了承の下、直接学校と連携をとるようにしています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		主に保護者様を通して連携を図っています。今後は、アセスメント等の機会を通して主治医とも連携体制を整えていきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		利用されている方は皆、同じ事業所の児童発達支援事業から引き続き利用されている為、情報共有等に関してスムーズです。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		必要に応じて保護者様の同意を得たうえで情報提供を行います。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		発達障がい者支援センターや熊本県こども総合療育センターの支援を受けています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		学校や学童等で役割をお願いしています。今後も連携を図っていきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		自立支援協議会の子ども部会に参加しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡ノートや送迎時、面接(モニタリング)等を通して共通理解を図っています。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者向け研修会の案内を行うと共に、必要に応じて実際に療育へ参加していただくなど、関わり方の支援を行っています。 今年度はペアレント・トレーニングを開催しました。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時や契約変更時に分かりやすい言葉で説明を行うよう心掛けています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時や電話の他、必要に応じて面談の場を設けて相談に応じています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		親の会の活動に協力をしています。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		法人全体で苦情解決チームを発足し、ポスターを掲示しています。苦情に至る前に悩みや問題解決ができるよう普段から相談しやすい関係づくりに努めています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		行事予定表を作成しています。又、今年度より同意を得た保護者様に対して一斉メールができるよう体制を整えました。	
	35	個人情報に十分注意している	○		同意書をとっています。	

36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	個々に合った方法で配慮するようにしています。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	同法人の行事(秋祭り)や地域福祉交流館FindingRを通して、地域に開かれた事業運営を図っています。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各マニュアルを策定すると共に、法人内研修を通して救急法や感染対策キットの使用方法などを学んでいます。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		法人全体の訓練と事業所内の訓練を計画的に行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		法人内に委員会があり、虐待防止に向けて調査や研修を行っています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束が必要な場合は利用児や保護者様へ説明を行い、個別支援計画書に記載し了承を得ています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		食事の提供は行っていません。おやつに関してはアセスメント時に保護者様へ確認しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		過去の事例を綴り、いつでも職員が閲覧できるようにしています。	